

# 東京都交通局

## 誰もが利用しやすい路線バスの実現を目指します ～日本初のフルフラットバスの導入など～

東京都交通局では、東京2020大会とその先を見据え、誰もが利用しやすい新たな路線バスのモデルを構築し、全国へ発信していくため、以下の取組を進めています。

### 1 日本初となるフルフラットバスの導入

都営バスの全ての車両は、乗降口に段差のないノンステップ車両ですが、車内の通路後方には段差があります。この通路段差を解消した「フルフラットバス」を日本で初めて導入します。

これにより、高齢者をはじめ、誰もが車内後方まで移動しやすくなるとともに、前方での混雑が緩和され、快適通勤にも寄与することが期待されます。

このフルフラットバスは、平成30年12月25日から「都02系統」（大塚駅～錦糸町駅間）で運行を開始しました。まず1両導入し、平成30年度内に他の系統を含めて29両を導入予定です。



フルフラットバスイメージ



フルフラットバス車内

これまでの「ノンステップバス」は、お客様が乗りやすくなった一方で、車内の通路後方に段差ができました。この段差には二つの問題があります。一つはお客様が車内の後方へ行くことをためらってしまうことによる混雑です。もう一つは段差による車内での転倒のリスクが高くなったことです。

東京都交通局では、この車内後方の段差をなくすことで、これらの問題を大きく改善できると考えました。海外で走行しているフルフラットバスの研究を重ね、国内の法令等に適合するようにメーカーと試行錯誤しながら、今回の導入に結び付けました。

### 2 充実した情報案内を途切れることなく提供

平成29年9月に発表した「都営バス構想2020」では、初めてバスを利用する人でも迷わないよう、駅からバス車内まで連続した情報案内を多言語で提供することを目指しています。①乗りたいバスのバス停はどこか、②バスがいつ来るのか、③どこへ行くバスなのか、この3つのわからない、の解消を目指し、一例として、地下鉄改札口や駅前広場にデジタルサイネージの設置を進めています。



地下鉄改札口デジタルサイネージ



駅前広場デジタルサイネージ

#### 【フルフラットバス】

通路の段差解消に加え、傾斜をバリアフリー法及び関連条例で定める建築物の傾斜路の基準 1/20（約2.9度）以下に抑えた大型路線バス

問い合わせ：都営交通お客様センター  
03-3816-5700